黒谷地湿原

黒谷地 (black marsh) の特徴的な濃緑色の森は、アオモリトドマツの群落です。

茶臼岳と八幡平が出会う丘陵では、地面は泥炭で黒い色をしています。春に冬の深い雪が解けると、広大な黒谷地の泥炭地に、前年の枯れた草の間から伸びるシヨウジョウバカマやイワカガミなどの湿地植物が花を咲かせます。夏には、ハクサンフウロウ、イワイチョウ、チングルマが風に揺れます。秋には、鮮やかなエゾヤマリンドウの群落が風景を紫色に染めます。

黒谷地湿原の入り口から 700 メートルのところにある黒谷地展望台からは、黒谷地湿原と湿原の沼の景色を眺めることができます。板敷きの歩道沿いには熊の泉 (Bear Spring) があります。

乾燥した環境に慣れている植物は、風が強い稜線沿いに生育しています。風から守られ、雪が完全に溶けることのない崖下の地域では、湿った環境に適応した植物がみられます。しかし、この環境は植物の成長を遅らせるため、ゼンテイカ、アオノツガザクラ、クルマユリ、ウゴアザミ、イワオトギリのような野生の花は、山頂地域の高山植物の花が終わってからやっと開花します。